

8月2日(火)発行

当日の感動を  
すぐお届け!!

特別協賛: **TOSHIBA**  
Leading Innovation >>>

ほぼ

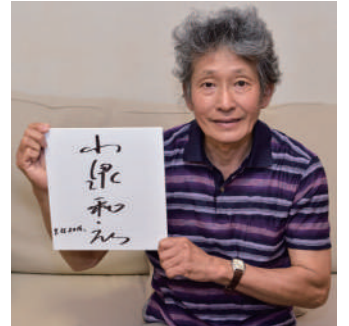
# 日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊



## 小泉&都響! 圧巻の響き



マエストロ：小泉和裕

終演後、サインをいただきました。

7/31 東京都交響楽団

### お客様の声から♪

私の中では都響は日本のウィーンフィル。このミュージックで聴けることが最高の喜びです(67歳・主婦) / 元気をもらった。暑さもふつとんだ(68歳・無職・KOKEN) / プラームス 4 楽章の最後の高揚感に思わず興奮して、体が熱くなるのを感じました。小泉さんと都響の一体感も見事でした。改めて感じましたがこのホールは音響が抜群(OY) / 共に第2 シンフォニーは地味な先入観があったが見事に裏切られた(61歳・団体職員・小僧さん) / 小泉&都響という最強のコンビでベト2 & プラ2 という最強のプログラム! 大満足の好演でした。(Satoko) / 何てぜいたくなプログラム構成! 完成度の高い演奏! 心ゆくまで堪能しました(75歳・フリー・荒川雅子) / 良い選曲、良い演奏者、良い指揮者、に心地良い拍手の四拍子揃った上質のマチネでした(61歳・吉原達生)

7月31(日) 東京都交響楽団「ドイツ2大交響曲」撮影：青柳聡

フェスタサマーミュージックは、大相撲ならば「満員御礼」の垂れ幕が掲げられるような盛況が続く。折り返し地点にさしかかった7月31日、ベートーヴェンとブラームスのどちらも交響曲第2番という重量級のプログラムが披露され、圧巻の響きがホールを満たし、お祭り気分はどこまでも熱を帯びて高揚する。

指揮台に立った小泉和裕は60代の後半に入り、正攻法の音楽づくりにさらなる磨きがかかる。確信に満ちたタクトを受け止めるのは東京都交響楽団。しな

やかで強く、精細な表情をたっぷり含んだ艶のある響きを紡いで、共演40年で培った揺るぎない信頼関係が小さな音色の移ろいにもにじみ出る。

「オーソドックスと呼ばれる作品をきちんと演奏したい」。小泉がつねづね語るこの言葉に一切の虚飾はないが、ベートーヴェンの第2番冒頭に奏でた打撃音のような強奏は、均整の取れた美しいたたずまいに躍動感がみなぎる。自らの苦難を超えて新しい世界を追い求めた作曲家の胸中を瞬時に映し出す

かのような。心地よい緊張の中に歌があふれ、舞台を包み込んだ客席の心がつながれて、音楽を共有する喜びはミュージックにしかない醍醐味だ。

後半のブラームスは、ゆったりとした歌い口の始まりから魅力たっぷり。ミュージックの豊かな音響を生かし、オーケストラが丹念な彫琢を重ねて、降り積もるようにしたためられたブラームスの思いにとりどりの光を当てていた。

谷口康雄(音楽ライター)

## NEXT!! フェスタサマーミュージック

明日はどう聴く? 20代応援団がナビゲート!

8月4日(木) 18:30 開演  
洗足学園音楽大学

チャイコフスキー三大バレエ

指揮：秋山和慶

管弦楽：洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団

バレエ：洗足学園バレエコース学生ほか

S 売切  
A 僅少

明日(8/3)は休刊日です

合唱と、バレエの群舞は似たような存在に見えるが、実は意外に異なる点が多いのだ。まずプロの合唱団の中からプリマドンナは巣立たないが、群舞からソリストへの昇格はごく当たり前。そのため群舞は決してマスケムのようにきっちり揃った演技するのではなく、実は一人ひとりの個性を主張してもいる場でもある。その群舞の中から自分の「推しメン」を探し、タニマチのように見守り続けることが、バレエ鑑賞最大の醍醐味といっても過言ではない。本公演のうら若き新鋭のなかから、未来のエトワールを探しだしてほしい! (小室敬幸 作曲/音楽学)

洗足音大だからできる贅沢なコンサートが今年も実現。生のバレエの優雅・悲哀がコンサートホールに響く迫力のオーケストラ・サウンドと融合し、このサマーミュージックでしか味わえない感動をもたらすこと請け合い。「オーケストラのバレエ音楽は聴くけど、実際の舞台は観たことがない」「バレエ上演は観るけど、オーケストラは実際に聴いたことがない」という方にはこれ以上ない組み合わせのコンサートだろう。曲はクラシック・バレエの王道中の王道、チャイコフスキーの三大バレエからの抜粋。円熟のマエストロ・秋山和慶の引き締まったタクトと共に、ミュージックで紡がれるスケール大きな物語をお見逃しなく。(平岡拓也 大学生/音楽プログラマー)

# ジュニア・プロデューサーがゼロから考え、作り上げたコンサート！

7月28日(木)公演レポート



ジュニア・プロデューサー2016のメンバー  
(左から・いづれも東京交響楽団)清水泰明、謝名元民、小西広興



取材を受ける広報班



いらっしゃいませ！



アンケート回収の様子

今年で4年目のジュニア・プロデューサー企画。

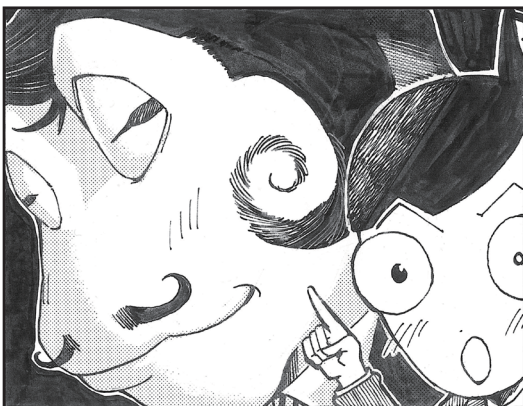
川崎市内の小学生4~6年生12人が集まり、コンサートを『制作』しました。5月に初めて出会い、本番まで7回の活動で話し合ったり、一緒に作ったりして準備を進めてきました。

当日、リハーサルで出演者の東京交響楽団メンバーによる弦楽四重奏の演奏を間近で聴いて「かっこいい!」「すごい!」と感動するプロデューサーたち。そして、いよいよ高まる緊張感・・・!コンサートの中身である演奏曲やクイズを考え、当日はしっかりと司会を務めた企画班。チラシやリリース(報道機関

へのお知らせ)など、ミュージアのスタッフのような広報活動を実際に行い、取材記者にもしっかり対応できた広報班。コンサートをスムーズに行うために、会場を準備し、ご案内係を学び、「子ども席」や「キッズスペース」も作った運営班。全員が、自分自身で考え、仲間と協力することで、大人も子どもも楽しめる素敵な弦楽四重奏コンサートになりました。

これまでジュニア・プロデューサーを経験した子どもたちが、サポーターとして関わるといつながりも続いています。ミュージアで新しい友達と、そして音楽と仲良くなってくれたことは、ホールにとっても大きな財産です。

(事業課 か)



## コンサートへの道 第9回 チャームポイントはスパイラル!

画：井上孝志  
文：ミュージアスタッフ

はじめてのミュージア!あれ、自分の席ってどこだろう……?—ミュージアはスパイラル状の客席のため、1階席から3階席まで客席内で移動できるのが特徴。席を探すのは、初めての方ですと少し難しいかもしれません。チケットの券面にお席から一番近い扉番号と階数が書かれていますのでご参考になさってください。わからない場合は、案内係にぜひお気軽にお声掛けください。また、その形状から段差・スロープも多数ございます。注意が必要な箇所には、表示を出したり、テープを貼ったり、開場時に明るくしてございます。席を探される際は、足元にも充分お気を付けください。

パートナーショップのご紹介

### エンジョイ! 川崎!!

Enjoy Kawasaki

クレープ  
ブレッツ・カフェ・クレープリー

ラゾーナ川崎プラザ2階・パートナーショップP.13

サマーミュージア特典 チケット提示で  
**1ドリンクサービス**

※詳細はパートナーショップリストをご覧ください

フランス・ブルターニュ地方の郷土食・そば粉のクレープ(ガレット)を味わえるこのお店は、ミシュランガイドにも掲載されたほどの本格派。

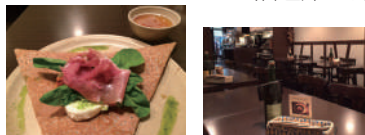
今回は、生ハム・モッツアレラチーズ・アボガド・ドライトマトなどが盛り込まれたガレットを注文。サマーミュージア優待サービスで頂いた辛口シードルと生ハムの塩気が抜群の相性!

そば粉がダメな方には、小麦粉

のクレープもあります。もちろん、デザートクレープも豊富な上、ブルターニュ産のアルコールも多数揃っており、なかなか決められません!

気分は一瞬でフランスへ。しばらくの間、通い詰めそうで怖いです…。

(管理課 ふ)



### 友の会キャンペーン実施中

#### 新規入会でもらえる!

サマーミュージア期間中に友の会入会受付カウンターで入会された方にサマーミュージアオリジナルチケットホルダーをプレゼント!  
(~8月11日まで)  
年会費3,000円でお得な6つの特典♪  
詳しくは友の会入会窓口(ホール歓喜の広場特設カウンターもしくは5階受付)まで

#### 現在会員の方に

“最響の水”が当たる!  
サマーミュージア公演のチケットを事前にご購入の友の会会員様、各公演抽選で20名様に“最響の水”をプレゼント!(当選者の座席番号を当日ロビーに掲示いたします。)

当日の感動をすぐお届け!!

毎日  
日刊サマーミュージア  
Hobo Nikkan Summer Muza

バックナンバーは  
ミュージアホームページでも公開中!  
http://www.kawasaki-sym-hall.jp/

「ミュージア2年目、川崎生まれのスタッフです。幼少期を過ごした川崎に、大人になって働きに来ることになるとは、感慨深いものです。JRの黄色い電車(南武線)、遠くの空には羽田空港から飛び立った飛行機、町のゴミ収集車から聞こえる『あの音楽、懐かしいものはあります。夏休みには元気が外で遊んでいました。私も子どもも。私たちがタイムスリップして現代に来たら、きっとサマーミュージアに来ていたことでしょう。こんなにたくさんの方のコンサートがあるのだから、1つくらいは母も連れてきてくれるはず。テレビで聴いたことのある曲や音楽の授業で習った曲、ママの音楽に触れていたらきっと違う人生になっていたでしょう。もしかしたらコンサートを創る側ではなかも、なんてこと考えるのです。今の川崎に住む子どもはもうやまじいな。

「ヤング券」というネーミングはちょっとニヤとしてしましますが、対象は小学生から大学院生まで幅広いのが魅力。多くの若者にミュージアでワクワクしてもらえますように。

事業課 ち

スタッフ日誌